

特集「協会を支える分科会活動」を企画して

「粉体技術」編集委員会

分科会は粉体工業展と共に、本協会を支える重要な柱となる活動である。

現在、技術分野別に19の分科会〔単位操作型（常置型）が16、目的指向型（プロジェクト型）が3〕が設けられ、粉体工業技術の進歩向上を図るために、産学官が協力して、年間数回の研究会を開催し、講演・技術討論および工場や研究施設の見学、さらには他の学協会との連携を通じて、当該技術分野の情報収集と発信ならびに近未来技術への探求を続けている。

得られた成果は技術書の編纂と発行、専門講座や粉体エンジニア早期養成講座などの人材の育成にも活用され、協会にとって分科会の果たす役割は大きい。

分科会の運営方針の統括には分科会運営委員会が関与する。分科会活動の継続・分割・廃止・新設などについて指導的役割を果たしながら、活動の活性化を図っている。

従来、目的指向型（プロジェクト型）分科会であった電子写真技術分科会は、その活動目的をほぼ達成したので、本年より静電気技術利用分科会として衣替えし、活動する。

特集にあたり、各分科会の「最新の技術動向」については、正副コーディネータをお願いしている専門の先生方に執筆いただいた。この項だけを通読しても、粉体工業技術の今後の動向を窺い知ることができる。

平成23年度も、次のような「テーマ」を掲げながら活動を展開する。技術の高度化を縦軸に、現在・近未来・将来（夢）の時間軸を横軸とした「ロードマップ」と併せてお読みいただくと、それぞれの活動の核心に触れることができる。

単位操作型（常置型）分科会

- バルクハンドリング分科会……………バルクハンドリング分科会需要の検証と喚起
- 粉砕分科会……………粉砕技術とその高度化
- 分級ふるい分け分科会……………分級とふるい分けにおける高精度化技術
- 乾燥分科会……………医薬関連の乾燥に関する講演と工場見学
- 集じん分科会……………集じん技術の多機能化、ろ布耐久性・バグフィルターシステムのISO化
- 混合・成形分科会……………混練状態評価法の確立
- 造粒分科会……………新しいエネルギーに関わる造粒技術
- 計装測定分科会……………新しい粉体測定技術の探求と信頼性向上
- 湿式プロセス分科会……………次世代を担う粉体エンジニアの育成
- 粒子加工技術分科会……………粒子加工技術の向上
- 輸送分科会……………輸送設備における新市場動向の探求
- クリーン化分科会……………製薬分野、ナノ領域におけるクリーン化技術
- 環境エネルギー・流動化分科会……………廃棄物と仕組み活用のエネルギー利用
- 晶析分科会……………マイクロリアクター利用のための基礎技術の提案
- 微粒子ナノテクノロジー分科会……………微粒子ナノテクノロジー技術の普及
- 静電気利用技術分科会（旧電子写真技術分科会）
……………向かうべき将来の模索

目的指向型（プロジェクト型）分科会

- 電池製造技術分科会……………最先端リチウムイオン電池の最新技術開発動向、次世代電池技術開発動向の紹介
- リサイクル技術分科会……………資源循環とCO₂削減、リサイクルの海外展開
- 食品粉体技術分科会……………食品製造の基本となる安心・安全の追求